

田中は友達と二人でファミリレストランに入った。扉を開けると、「いらっしやいませ！」というウエイトレス達の声が店内に響いた。お昼のランチタイムで活況のいい店の出入り口には、順番待ちの客が溢れている。

「二人なんですけど、どれ位待ちますか？」田中が案内係に尋ねた。

「おそらく二、三十分はお待ちいただくことになると思いますが・・・」

「二、三十分ですか、構いません。待ってます」
恐れ入ります。それでは、お名前をお願いします」

「田中です」

「田中様ですね。お席は禁煙席、喫煙席どちらがよろしいですか？」

「禁煙席をお願いします」

「はい、わかりました。ではお名前をお呼びするまで暫くお待ちください」

イスに座って順番を待っていると、およそ二十分後によく「田中」の名前が呼ばれた。

「二名でお越しの田中様、田中様！ たいへんお待たせいたしました」

席へ案内されると、二人はすぐにメニューを広げ、注文の品を決めた。

「ご注文はお決まりでしょうか？」

「はい。鳥の立田揚げと、タンタン麺と、ツナサラダと、コンソメスープ、それにウーロン茶、コーヒー、チーズケーキ、カシスシャーベット、以上でお願いします」

「申し訳ありません。チーズケーキは本日終わってしまったんです。今ございますのが、アップルパイ、いちごのショート、それに、ティラミスとチョコレートケーキになります」

「では、ティラミスで」

「ティラミスですね、かしこまりました。それとツナサラダのドレッシングは何にいたしますか？」

「何の種類がありますか？」

「和風、イタリアン、中華、フレンチ、梅ドレッシングの五種類がございます」

「そうですか。では中華でお願いします」

「はい、かしこまりました。お飲物は食前食後のどちらにいたしますか？」

「食前をお願いします」

「かしこまりました。それではご注文を繰り返します。鳥の立田揚げがお一つ、タンタン麺がお一つ、ツナサラダが中華ドレッシングでお一つ、コンソメスープがお一つ、ウーロン茶がお一つ、コーヒーがお一つ、カシスシャーベットがお一つ、ティラミスがお一つ、以上でよろしいでしょうか？」

「はい、結構です」

注文を終えてから数分後、ウーロン茶とコーヒーがテーブルに運ばれてきた。